

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 1274000254 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 あい愛 | | |
| 事業所名 | こころあいホーム | | |
| 所在地 | 千葉県富里市御料1139-32 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年2月18日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年4月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ACOPA | | |
| 所在地 | 千葉県我孫子市本町3-7-10 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年3月3日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が、ゆったりと過ごせるような雰囲気づくり。 ・一人暮らしを不安に思う利用者が安全に暮らせるよう最善の注意を払うという意識を高めている。 ・利用者だけでなく、家族なども全て包み込んで支援している。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>あい愛は「和気あいあいと、住み慣れた地域で心豊かに、安心して暮らせる場を提供する」旨の理念に基づき、平成13年に立上げた法人であり、志を同じくする人達とともに逐次事業拡大を図ってきた。中でも平成17年に設立した当ホームは理念の実践にこだわりを持った職員のチームワークにより、食事・排泄・入浴・睡眠と生活のあらゆる場面で利用者本位の対応がなされている。また、家族や地域の方の来訪も多く協力的であり、地域密着の理想に近い形での運営がなされている。今回のアンケートでは回答率は100%で、内容的にも極めて高い満足度評価を得ている。重度な方も多いが職員は明るく、ホームは穏やかな雰囲気が漂っている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 特定非営利活動法人 あい愛 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスの意義をふまえた理念を共有し実践している | 理念の実践をホームの使命として大切にしている。私たちの信条(Credo)として解説を加えて職員に配布するとともに、理事長自らよく現場に顔を出し、職員と話し合い、実践を通じて理念の共有に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 広報、行事等で近隣の方やボランティアの方等交流の機会を得ている | 併設のデイサービスとともに、地域に根差した運営を心がけており、近隣住民、ボランティア、出入り業者までもが、日常的に来訪し家族のような関係を作っている。ホームの夏祭りには総勢300名の参加があった。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 実践を通じて認知症の人の理解や支援の方法を活かしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に一度開催しておりそこでの意見をサービス向上に活かしている | 富里市高齢者福祉課職員、民生委員、学識経験者、家族代表等馴染みの方の参加を得て2か月に1度定期開催している。運営状況の説明とともに、各参加者からも情報や意見を頂き相互に理解を深めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 2014/3/3 | 積極的に協力関係を築くように取り組んでいる | 市とは事業所の力を生かして積極的に協力関係を築いている。また、市職員には運営推進会議やホームの夏祭りに参加いただく等、運営に強い関心を持っていただき理解を深めている。毎月2名の介護相談員の来訪も受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人内外研修等に積極的に参加し正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束排除宣言」を掲示し、身体拘束せず目配りに対応することを徹底しており、利用者は穏やかである。県の研修にも毎年申込みとともに、事業所内でも拘束しないケアと安全確保について話し合い細かな工夫を重ねている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全ての職員が研修等で学ぶ機会を持ち、常に虐待が見過ごされることがないように職員間で連携を取り合っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 学ぶ機会を持ちそれらを活用出来るよう取り組んでいる | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行っている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会や来所の際、意見要望を聞きそれらを運営に反映させている | 理事長や管理者・職員の理念に基づく運営姿勢が家族にも伝わってか、日常家族の来訪が多い。毎月の昼食会を兼ねた家族会への参加も多く、またアンケートにも全家族から回答を得る等良い協力関係を築いている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている | 職員会議は毎月20日午後に全職員の参加により定期開催し、出された意見は詳細な議事録を残し運営に反映させている。日々の相談については管理者が中心に受け止めて職員に安心を与えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修の機会を積極的に確保し活動を通じて質の向上に取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が困っていること、不安なこと要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その時まず必要な優先する支援を見極め対応している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員も利用者も区別なく家族一員として物事のよし悪しをはっきりとし、時には叱り、時には笑い合い、時には泣き、出来る事は得意とする人に任せる一つの家族としての関係を築いている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者と家族が自由に寛げる場を築いている。行事の参加へのお誘いは勿論、来所時タイミングが合った時など食事や入浴介助等出来る範囲で参加して頂き共に支えていく関係を築いている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの関係が途切れないよう支援している | 通い慣れたデイサービスに顔を出す方や、職員と一緒に留守宅を見回り安心して頂く方、また知人等多くの来訪があり、ホームは活気が感じられる。芝山仁王尊への初詣や節分の豆まき等、旧来からの慣習を皆で楽しみながら支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が関わり合い、支え合えるような雰囲気づくりを行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 行事にお誘いしたり、これまでの関係を大切にしながら、相談や支援に努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活の中で思いや、暮らし方の希望、意向を把握し本人本位に検討している | 声掛けを大切にしている。希望を聞いて本人の思いにすぐに対応することを心掛け、『今を大切に』支援している。「ちょっと待って」は禁句である。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族からの情報や日々の生活の会話等から把握に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員間で情報を共有し連携をとり、暮らしの現状把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日々の生活の中で本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し作成している | 利用者担当制を採っている。家族からは来訪時や電話等で話を伺い、毎日の詳細な介護日誌や利用状況報告書、職員の気付き等意見を出し合い毎月モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子を職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々に必要な支援に日々柔軟に対応し、一人ひとりのサービスの多機能化に取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 買い物、散歩、外食等で近隣との触れ合い、知人及び介護相談員、ボランティア等で豊かな暮らしを楽しむようになっている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族等の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している | 従来からの協力医療機関に加え、近くの内科医の協力も得、安心が広がった。入居前からのかかりつけ医には、看護師である管理者が同行し、医師への説明や医師からの結果を家族に伝え、また介護計画にも反映させている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の中で気づいたこと、気になること、ちょっとした変化、利用者本人の希望等看護師に伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられる支援をしている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 協力病院及び主治医と情報交換や相談を密にして連携をとっている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人、家族と話し合い事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し、関係者と共にチームで取り組んでいる | 重度化した早い段階で看取り介護についての同意書を取り交わし、本人・家族の揺れ動く思いに真摯に向き合い対応している。家族の協力のもと、医師、看護師、職員が一丸となって最後までホームで過ごして頂ける支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ミーティングや研修にて定期的に訓練を行い実践力を身に付けている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 全職員が危機意識をもち月1回防災訓練を行い、利用者が避難できる方法を身につけている。近隣の方にも参加して頂き協力体制ができている | 消防署指導で心肺蘇生法や消火器訓練等実施した。AEDも設置し、半年毎の設備点検も行った。毎月1回自主訓練を実施し、夜間想定や地震等避難訓練を本番さながらに突発的に行うなど、避難方法の体得に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尊厳を守り一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている | 出来ないところを見るのではなく、出来るところを見つけ褒める、そして本人にやってもらい自信を持って頂く、トイレでの失敗時には直ぐに声掛けするのではなく一息置いてから対応する等、尊厳とプライバシーを損ねない支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で本人が思いや希望を自己決定できるように働きかけている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の希望を優先し本人のペースで過ごせるよう支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ヘアカット、毛染め、顔そり、お化粧品、マニキュア等その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日一緒に買い物に行き食材を選びながら献立を考えたり、買い物に行く前にチラシに目を通し共に食事を楽しんでいる、片付けも共に会話をしながら楽しんでいる | チラシをチェックし職員と一緒に食材選びや配下膳・食器洗いなど出来る方は、当然のように行っている。リクエスト食や行事食など組み合わせ、またゼラチンを活用し、摂食介助や食べやすい食態の提供により食べる楽しみを支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者一人ひとりの状態に合わせ食事量、水分量、形態等にその都度すぐ対応する取り組みを行っている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりの力及び口腔状態に応じた口腔ケアを行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンに合わせ心地良い排泄が出来るように、柔軟に排泄環境に取り組んでいる | 排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。布パンツの方も多く、夜間オムツでも日中はリハパンで過ごして頂けるように対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜、乳製品、水分などを多く摂って頂けるよう調理方法及び味、形状に変化をつけた取り組みを行っている。個々の力に応じ腹部マッサージや体操も取り入れている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個々の体調や気分及び希望に沿った入浴支援を行って楽しんで頂いている。一日をいつでも入浴出来る(午前、午後、寝る前等) | 毎日OKで、午前・午後・寝る前等一日を通していつでも入浴出来る対応で、個々の希望に沿った入浴支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 | 一人ひとりの生活習慣や希望に合わせて休息して頂いている。日中は利用者と職員の声が聞こえ寂しくないようリビングの座敷で休息している。温度、湿度の調節を細目に行い、心地良く安眠できるよう取り組んでいる | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬に対する疑問や変更があった場合、その都度説明を行い、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの力が発揮出来るよう、日々の生活の中で役割や得意なことを取り入れ嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりのその日の希望に沿って、いつでも戸外に出かけられる。本人用の外出グッズを玄関に準備している。本人と家族が楽しく外出出来るよう家族と常に相談しながら希望に沿った外出支援をしている。週1回自宅に帰られている方もいる。 | 散歩や買い物、季節の花見など外出の機会が多くなるよう努めている。全員揃って車でいちご狩りやあやめ祭り等に出かけている。毎月の外食会も全員参加が基本で、噛む力が弱い方にも盛りおろして食べて頂けるよう、すり鉢を用意して出かけるなどの心温まる配慮がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に応じて、電話をしたり手紙のやり取りが出来るよう支援をしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地良く過ごせるよう環境整備を細目に行っている。季節の草花や季節に合った掲示物を作り飾っている | リビングや廊下の壁面や飾台には、利用者の作品が多数展示され、楽しみながらこつこつ仕上げた思いが伝わってくる。リビングから続くウッドデッキは夕涼みやバーベキュー大会、緊急時避難場所などに活用されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング、台所、座敷、こたつ、デッキ、トイレ等で共同生活を味わって頂きながら、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせる工夫をしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人、家族と相談しながら、使い慣れた物や、好みの物を使用し居心地良く過ごせる | 使い慣れた小物や筆筒など好みに配置し、居心地よく過ごせるよう支援している。冬季は乾燥予防に努め、加湿器の配置の他、各居室洗面台には濡れバスタオルを掛け湿度管理するなどの工夫がされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の力を活かして、安全にできるだけ、自立した生活が送れるよう支援をしている | | |